

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスについての話し合いを行い、理念も見直しをする機会を設けたが、今後も今まで通りの理念でサービスの役割に反映できるとの結論になった。</p>	<p>○</p> <p>今後も定期的に見直しを行っていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は朝・夕の申し送り時に毎日唱和し、業務を行う上で悩んだ際などに、理念に立ち返って考えてみるよう話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>朝・夕の唱和は、今後も継続していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>皆の交流の場となっている食堂に明示しており、また、パンフレットにも記載し、見学や契約の際に説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>ホーム便りにも記載し、運営推進会議の場でも、地域に対して事業所の理念を理解してもらえよう働きかけていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>板柳赤十字奉仕団、民生委員、学校等の見学やボランティア、実習生の受け入れを行っており、地域住民からの野菜の差し入れ等もある。また、町内の祭りの観覧やショッピング等、地元の人々との交流の機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>住み慣れた地元の町内会への参加が出来る利用者もおり、今後も支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や勉強会の場を活用し、全職員に周知する取り組みを行い、自己評価にあたっては職員も一緒に取り組んでいる。	○	評価内容であげられた改善点を基に、より良いケアサービスを提供できるよう計画し、実践している。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに、積極的に参加してもらえるように働きかけを行っている。メンバーの方々には会議での役割を理解してもらい、サービス内容の意見交換をしている。	○	地域住民からの情報を基に、サービスの質の確保・向上に取り組んでいきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の結果は提出して報告を行い、ホームの実態等を理解してもらう為に働きかけている。また、サービスを提供する上での問題や疑問が生じた際には、速やかに町の担当者に伝え、検討している。	○	今後もサービスの質の向上のために、積極的に係わっていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	町で実施した研修会へ参加し、勉強会で全職員に周知する機会を設けた。また、必要と思われた利用者・家族へ情報提供を行い支援した。	○	今後も必要と思われる利用者・家族へ、随時情報提供を行い支援していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの提供現場で、虐待と思われる言動が無いか確認し、未然に防ぐよう努めている。	○	全職員が高齢者虐待防止関連法に関する理解を深める為、外部研修への参加や勉強会の実施をしていきたい。また、対応方法や報告の流れなどについて、取り決めを作成していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明と平行して順次説明を行い、一項目ごとに家族からの質問や意向を受け、十分な説明を行い理解・納得を得るようにしている。	○	契約時、重要事項説明の他に、事故発生時の損害賠償について、分りやすく説明できる資料を作成していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に、利用者から意見や苦情が出しやすいような人間関係を作り上げるよう努力している。苦情処理については、速やかに対応する体制が整っている。	○	第三者委員に、定期的に足を運んで来てもらえるよう働きかけていきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活に係わる全ての事に関して、最低月1回は家族へ報告し、意向を確認できる機会を設けている。突発的なものに関しては、その都度相談・報告している。	○	今後も継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱の設置はしているが、直接家族から意見や要望を聞くことができている。また、外部の苦情受付窓口については、契約時に説明を行っており、事業所内の窓口にも明示している。	○	家族等の意見を運営に反映させていく為、積極的に働きかけていく。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは会議の場のみならず、日常的に意見が出されており、都度話し合いを行い運営に反映させている。受け入れる利用者の今後のケアについては、職員の意見を取り入れている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外部評価の評価を生かしたり、利用者や家族の要望・職員の気付きを取り入れ、勤務調整や体制の変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を避けるために、職員の移動・配置換えに対しては利用者には十分説明しており、理解を求めている。 新しい職員を配置する際には、全職員でケア内容を引き継げるよう指導し、利用者となじみの関係を築けるよう支援している。	○	離職を必要最小限に抑える為に、就業規程の見直しや、職員の間関係にも目を配り、職員の変更による利用者へのダメージを最小限に抑えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者・職員の質の向上を図る為、各種内外の研修会への参加を推進し、人材育成に努めている。また、年間の研修会や勉強会、復命報告の計画を立てている。	○	管理者や職員の意見を取り入れながら、研修・勉強会を継続していく。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人併設施設であるため、他部署との交流や互いに情報交換できる機会があり、サービス向上に役立っている。また、外部研修で知り合った他同業者との情報交換もできている。	○	地域のグループホーム協会への加入も検討していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は日常的に職員のストレスや悩みを受容できる体制ができており、管理者へ職員が気軽に日頃のストレスや悩みを話せる環境ができています。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり、必要に応じて見直しを行っている。また、資格取得を勧め、常に向上心を持てる様な働きかけを行っている。 定期的に健康診断も行っており、心身の健康を保つ為の体制もできている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に関する相談・依頼があった際には、申し込み者の家族とよく相談し、入居に至る経緯を説明しながら、本人と家族の現状を把握するよう努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、本人がグループホーム入居までの間に必要なサービスを受けることができるよう、関係機関との連携を図り、支援している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用できる様に、入居前に本人と家族が十分に話し合い、納得の上で入居できるよう働きかけている。また、場の雰囲気を感ぜてもらふ為に、事前のグループホーム見学を積極的に勧めている。	○ 本人・家族の意向に沿ったサービスを提供できるよう、今後も随時見直しを行いながら、話し合いの場を設けていきたい。
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人の喜怒哀楽を受容することに努め、本人の得意なことを学ぶ姿勢で接しながら、支えあう関係を築いている。	○ 今後も入居時には、本人・家族から得意なことや好きなことの聞き取りを行い、入居してからの働きかけへの参考にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報交換を行い、問題点・疑問点が生じた際には、話し合いの機会を持ち、家族の協力を得ながら問題解決に努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を、入居に至るまでの経緯等から把握し、入居後も関係が悪化したり、途切れたりすることの無いよう、面会の際などに本人の言葉として家族を心配している思いを代弁する等行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くにある自分の田畑を見に行ったり、デイサービスを利用している友人達と、定期的に交流できる機会を多く持つなどの支援を行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の人間関係を把握し、会話の中にも職員が入ったり抜けたりしながら、トラブルにつながることを無いう、また、お互いに認め合うことができるような関係となるよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談に応じ、場合によっては今後のサービス利用に向けての支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から、どのような暮らし方をしているのかを把握し、入居してからも本人の意向や希望を、コミュニケーションの中から、拾い上げるよう努めている。	○ 家族や関係者からも情報収集を行い、継続して本人の生活に生かしていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて、これまでに利用したサービス提供者からの情報収集を行い、サービス利用中の状態や変化などを把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の生活リズムについては入居時に情報収集を行うが、把握できない場合はチェック表を作成し、把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より、職員の意見や気付きを聞き、会議の場等を通じて話し合いが行われている。また、面会の際などに、家族の意向も聞くことができ、それらを反映させた介護計画を作成している。	○ 本人の目線から、本人にとっての問題は何なのかを重視して、今後も作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際には、本人・家族から意見を聞くとともに、関係者と会議を行い見直しの内容について検討し、新しい計画を作成している。	○ 家族へも本人の現状を把握・理解してもらう為の良い機会として、面会時等を利用して今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、利用者の身体状況・感情・表情・行動等の気付いたことを、細かく個別に記録している。また、職員が記録の確認を行い、情報の共有をケアに活かし、結果を介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており、グループホーム利用の継続性を支援する為の対応を行っている。外出や外泊の支援についても、必要に応じて移送サービスを行っている。	○	今後、短期利用のサービスを計画して行き、更に地域のニーズに応じて行ける様に取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	板柳町赤十字奉仕団や民生委員の協力が得られており、警察署や消防署からも協力が得られる体制が整っている。また、公民館・図書館等の地域資源も活用している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現段階で他サービスの利用を希望する利用者がいない為、実施はしていないが、今後必要性に応じて対応していく。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性を考慮し、権利擁護への支援に取り組んだ。	○	今後も利用者の必要性に応じて、協働して行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	町内の医療機関に関しては、協力医療機関の契約を結んでいる。今後も取り組み、利用者のニーズに対応していきたい。
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	全てのかかりつけ医療機関と、早期退院に向けての情報交換や相談ができる体制を整えていきたい。
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	かかりつけ医・家族・グループホーム職員との話し合いを密接に持っている為、良い終末ケアが実現している。今後も継続していきたい。
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	事業所として職員が不安な事等についての勉強会を開催して行き、不安の軽減、多様なケースへの対応ができるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	全職員は利用者が環境の変化に敏感であることを十分に理解しており、ダメージを最小限にする為、入居後は家族へ面会を頻繁にしてもらえるよう依頼する等の働きかけを行っている。	○	その人らしい居室作りを、家族と協議しながら計画していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮して、羞恥心や自尊心を傷つけない声掛けや、適切な態度でケアに臨み、個人情報の取り扱いについても注意を払っている。	○	これからも勉強会等を通じて、改善に向けた取り組みを行ってきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択食（毎週）や相撲の星取りなど、利用者が自分で決定する機会を作るようにしている。また、毎日入浴できるように設定し、自分で好きな日に入ることができるよう工夫している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや状態に合わせ、業務を優先することなく、できる限り本人の希望と合わせた柔軟な支援を行っている。	○	食事に関しても、場所や時間にこだわらず、その日のペースに合わせて提供していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人の望む店に行けるよう、家族の協力も得ながら実施できている。また、外出先に合わせたおしゃれへの支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備・食事・片付けは利用者と職員が行っている。献立は利用者の嗜好を考え、選択食を多めにしている。	○	利用者の機能を活かした調理への参加も助長していきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこに関しては現在の所、該当者がいないため実施していない。他のものに関しては、一人ひとりの嗜好品を取り入れながら、飲み物やおやつを提供をしている。	○	誕生日に、利用者の嗜好品を一品取り入れた献立を作成しており、今後も継続していきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間帯のオムツ使用者が1名のみおり、他必要な利用者は昼夜共に紙パンツ・尿取りパッド使用し、トイレ誘導で対応している。失禁の多い利用者へは排泄パターンを記録し、把握して事前に誘導している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大浴場、ユニットバス（日中・夜間）、足湯を選択することができ、羞恥心の強い利用者に対しては、異性の介護員が対応しない配慮を行っている。	○	季節的に暑い時期は、シャワー浴も取り入れていきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンは把握しており、その日の状態に合わせて休息の時間を設けたり、不眠時は付き添ったり、飲み物を提供するなどの対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気や体調に合わせ、利用者の希望に応じて散歩・外で歌を歌うなどのレクリエーション等を行っている。 また、掃除・台所仕事など、各利用者ができる事を促し、働きかけを行っている。	○	個々の特技やニーズに合わせた、生活の中の役割意識への支援を行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、小額の金銭管理を行ってもらい、買い物での支払いをしてもらっている。	○	金銭管理ができない利用者へも、支払いだけでも行ってもらうように働きかけていきたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせ、畑を見に行くなどの散歩の支援や、近くのスーパーへの買い物支援等を行っている。	○	選挙投票日に、地元の投票所に出向きたい方への支援を引き続き行っていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月遠足の計画があり、外食や買い物の機会を作り支援している。又、家族の希望に合わせ、外出・外泊の支援をしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望する度に、電話ができるよう支援しており、手紙についても希望があれば代筆する等の支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定は無く、面会者と利用者がゆっくりと会話を楽しめるように配慮し、デイサービスになじみの方が来ている時は、訪問して交流を深めている。		
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害について理解しており、基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。ただしやむを得ない事情が発生した場合は、家族から同意を得て行うこともある。	○	様々な工夫をこらして、身体拘束の無いケアを今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を行わず、利用者が自由に出入りできるようになっている。利用者が外出したことを察知できるように、玄関ドアにベルを設置しており、すぐに職員が付き添いできるような体制が整っている。	○	今後も継続していきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	内外問わず、利用者を見守りやすい場所に職員がいて、利用者の様子を把握するように心がけている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤・刃物等の注意の必要な物品については、保管場所・保管方法を明確に取り決め、使用後はその通りに実行している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応策のマニュアルはあり、勉強会も実施している。	○	利用者個々のリスクマネジメントを行ってきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受け、救急対応が速やかに行えるよう、取り組んでいる。	○	今後も継続的に勉強会等で行っていく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施し、避難方法を身につけて行けるよう、努力している。有事には全職員が集合できるよう緊急連絡網を作成している。	○	地域住民の協力を得られるよう働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、面会時を利用するなど、話し合いの場を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見のために、毎日のバイタルチェック、毎月の体重測定等を行っている。 小さな変化も記録として残し、全職員で情報の共有をし、必要に応じて医療機関への受診を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに一人ひとりの薬の情報をファイルし、いつでも見られる状態となっている。内服薬等の変更の際には申し送りノートへ記入し、周知徹底を図っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操、定期的な水分補給の他、随時水分補給ができるよう配慮している。	○	便秘の原因や及ぼす影響についての勉強会を実施していきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔内の洗浄や、義歯の手入れを行っている。 声掛けを行い、一人ひとりの習慣や意向に合わせた働きかけを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食のバランスを考慮して、食事を提供している。 こまめに水分摂取をすすめ、1日に必要な水分量を確保できるよう支援している。	○	食事の配膳や彩りにも気を配っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種を、事業所負担で利用者全員に接種している。また、職員にも事業所で補助金を負担し、全員が接種している。感染症のマニュアルが作成されており、常に職員の目に届く場所に配置している。	○	常に新しい情報を取り入れ、マニュアルの見直しを行っていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の衛生管理マニュアルを作成し、実行している。食材の明確な使用日を決め、新鮮な食材を使用している。	○	必要に応じ、マニュアルを随時見直ししている。また、取り決めたマニュアルは全職員に周知しており、今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠はせず、明るく開放感のある玄関になるよう努めている。	○	今後も植物を植え、外観にも気を配っていききたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた植物を飾り、彩りのある空間になるよう工夫している。空気が澁まないよう、小まめな換気を心がけている。	○	季節を感じる事のできる装飾を、利用者と共に今後も作成していく。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人で過ごせる場所の他に、談話するスペースも確保されている。	○	椅子だけでなく、畳を設置しており、利用者が好きな場所を選んで談話することができる。廊下に設置してある椅子も、数を増やす予定になっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物などの持ち込みは、本 人へも家族へも勧めており、小さな仏壇を持ち込 んでいる方もいる。	○	本人の色が感じられるような居室作りを、家族の 協力を得ながら行っていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	小まめに換気を行い、空気の澱みが無いよう、配 慮している。 また、温度と湿度の確認をし、冷暖房機の使用及 び加湿・除湿を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すり・滑り止めの設置、段差の解消、障害物の 排除を徹底している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自居室が分るように入り口に工夫をしており、ト イレの場所も分りやすく、どこからも分るよう に表示している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	庭に椅子を設置し、談話したり、CDを聴くなど の憩いの場があり、花壇には花を植え、裏の畑に は自由に農作物を植える等の活動できる場所があ る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・帰宅願望の際には、本人が納得するまで職員が付き添い、共に歩いている。
- ・利用者が四季を感じ、忘れないように季節ごとの行事を大切にしている。
- ・グループホームの理念である「笑顔咲く 楽しさ実る それが私達の願いです」にあるように、利用者や職員全員が笑顔に満ち溢れている。
- ・事業所に設置されている温泉入浴、足湯を利用者は楽しんでいる。
- ・自由に外で過ごせる環境が整っている。(散歩・畑作業・草取り・買い物・談話・花の世話等)
- ・毎週日曜日には、多目的ホールにてステージに立ち、カラオケを楽しんでいる。
- ・月1回、家族を招待し、誕生会を実施している。